



ぎふの木ネット協議会入会の 案内資料



ぎふの木ネット協議会



1. ぎふの木ネット協議会とは

岐阜県産材活用促進を目的として2019年に設立された産学官連携の団体です。
現在は約230団体の会員がいます。

年2回のフォーラム
リノベ部会、非住宅部会という各種専門部会
セミナーや勉強会
VR展示場モクタウンの運営
各種木育イベントへの参加
などを通じて、県産材の活用を訴えています。

協議会の想いを伝えるためのメッセージ動画は[サイトのトップページ](#)に



2. ぎふの木ネットの基本理念

森を守る
人を守る
技術を守る

これらを解説した協議会活動を説明するための短い動画を6本用意しています。
サイトにも掲載されています。タブレットでも確認できます。





ぎふの木ネット仕様の 木材使用量&炭素貯蔵量

2024年4月1日～2025年3月31日までの集計



木材使用量
1329 m³

炭素貯蔵量
975 t-CO₂

※ここに掲載した数値はぎふの木仕様のプレカット物件のみを集計したものです。

会員向け動画



1.ぎふの木ネット協議会とは

ぎふの木ネット協議会は、森林県岐阜の県産材活用を通して岐阜の森を守るために結成された産官学連携チームです。



2.ぎふの木ネットの想い

岐阜の木のサプライチェーンを通して、地域の森や人を守る活動に取り組んでいます。また、岐阜から地方創生の渦を創り出します。



3.ぎふの木で家を建て、森を守る

協議会活動の中心は、住宅へのぎふの木の活用です。合言葉は「ぎふの木で家を建て、森を守る」です。



4.脱炭素化宣言

協議会では、世界的な動きであるカーボンニュートラルに向けて「脱炭素化宣言」をし、情報ネットワークの構築やCO₂固定量の見える化に取り組んでいます。



5.ぎふの木ネット協議会の活動

協議会では他にもフォーラム、各種見学会やセミナーなどの開催、共同購入制度の提供、広告やデジタル展示場を通した認知度向上などの活動をしています。

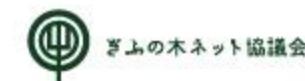


6.未来に向けた私たちの想い

持続可能な社会に向けてスピードある動きが求められる中で、岐阜県産材の推進に留まらず地域の中まで手を取りあって地方創生に向けて取り組んでいます。

会員の特典

- ・ぎふの木ネットに会員情報を掲載される
- ・毎月2回のメルマガ配信される
- ・年6回発行のぎふの木ネット通信を郵送される
- ・通信に自社のチラシを同封可能
- ・フォーラム、部会、各種セミナーやイベントへの参加
- ・一般向け各種イベントに、ぎふの木ネット会員として参加
- ・コンセプトブックの配布
- ・ぎふの木ネット仕様(構造材の60%を県産材使用)の住宅には、希望者には協議会から証明書を発行される
- ・各種資材を共同購入にて特別価格で購入できる



ぎふの木ネット協議会とは？

ABOUT GIFUNOKI.NET

topic
01

岐阜県産材を使った家づくりに関して活動をする、200以上の様々な業種の企業・行政・学術機関の連携チームです。

「ぎふの木ネット協議会」は、岐阜県産材選用を推進することで岐阜の森を守るために立ち上げた産官学連携のチームです。全国から賛同してくれる200社/団体以上のメンバーが、それぞれの得意分野の情報をシェアし協議会活動に参加しています。



topic
02

環境に対しての取り組み

大切な地球を守るために、私たちにもできる事があります。木材は私たちの身边にあるサステナブルな素材です。木材を意識的に使っていくこと。木材の選用を推進することで環境保全に貢献しています。



木材選定から、調査、生産の工程。また建築物の施工、販売工程などにおいてSDGsに基づき、地球にも人にもやさしい取り組みを推進しています。

温室効果ガスの排出ゼロを目指すため、私たちは木材を活用していくことを推進しています。

topic
03

分野のインタビュー

事務局
ぎふの木ネット協議会
会長 吉田 芳治



岐阜県は森林率第2位の冠たる森林県。成長廻りとしても300年分の森林資源があります。この資源を利用し、岐阜をもっともっと元気にならない。根深化や省エネがキーワード。さあ行こう！

有有限公司倉地製材所
代表取締役 倉地 貞之



岐阜県は世界的に見ても貴重な松や杉の人工林が、38,400haも広がっています。そこから産出される木材を製材し、强度性能+寸法安定性+耐久性能が備わったJAS製品を増産し皆さんの安心安全な家づくりに協力して行きます。

工務店
株式会社アイギハウジング
代表取締役 保母 達則



「地域の森林を守りたい」協議会のそんな思いに共感し、参加させていただいている。

日本の風土には、日本の気候・自然が育んできた建築が一番です。これからも協議会と共に「木の家づくり」をしていきます。

オブザーバー
首都大学東京名誉教授
医学博士 星 旦二



私は、毎回の協議会の顧問をさせていただいている。健康を決定するのは、医学だけではありません。きれいな水と空気、そして温度度や騒音のない環境も大切な要素です。また、住宅の資産維持や地域創生もとても大切な健康維持要素です。これからも、みんなで手を取り合って、ご活躍ください。

topic
04

ぎふの木ネットは誰がやっているの？

メンバーは森林組合、林業事業体、製材メーカー、プレカット工場、木材加工、流通だけでなく設計や建築、不動産、金融・保険関係、デザイナー、建材メーカーまで幅広い方に参加いただけて多くの拠点から協議会活動の企画運営を行っています。

産

官

学



木材を、選ぼう。

message

日本が誇る木造建築は、すべてその地域の木で作られてきました。

1300年前に建てられた法隆寺の柱は今なお芳香を発しています。

島国多島で気候変動の激しい日本では、地域の気候で育った木が地域の建築に一番適切なのですが、現在の建築業界では林業過剰や生産効率の問題、価格の問題からどこ産の木を使うかという事が多く重視されていないのが現状です。よって木材のトレーサビリティ情報がユーザーまで届かず、建築構造の耐久性に大きく影響する木材をユーザー自身が選ぶという、一見当たり前に思える事がなされています。

自分で家を建つなら、床やキッチンと同じように、木材も選びませんか。



ぎふの木で築く未来 協議会のあゆみとこれから

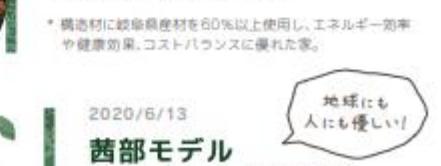
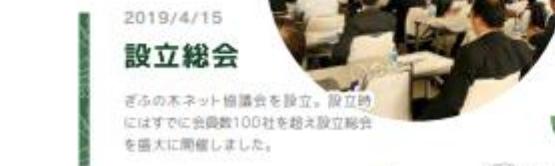


2023/6/21 岐阜県産無垢材活用倉庫 完成

岐阜県産材を活用した無垢倉庫を建設。集成材をつかねば8m×30mのスパンを実現し、さらに2×4トラス工法の採用により、集成材を使わずにロングスパンの空間を作る倉庫ができました。



WOOD GO 出展



2023

2024



2022



「県産材利用促進協定」を岐阜県と締結。これからも県と連携し県産材の利用促進に取り組み、循環型社会の形成や地域経済の活性化を目指していきます。

